

平成25年度

帯広市
文化賞
文化奨励賞

平成25年11月3日

帯広市教育委員会

帯広市文化賞受賞者



まつざき ちえこ
松崎 千枝子 (67歳)

《受賞理由》

氏は、若くから演奏活動を行ない、多くの歌手を育て地域の芸術文化活動に貢献されました。

自らの声楽教室のほか「こえだの会」主宰、「のぼらの会」代表、「うたの会フェリーチェ」主宰など、老若男女問わず声楽愛好家や後進の育成に精進してきた指導者としての功績は大きく、十勝・帯広の文化の振興発展に大きな貢献をされています。

また市民手作りによるオペラ公演実現に向けての啓蒙活動に尽力し、その後の市民オペラではソリスト指導や演出補を務めるなど、ソリスト達のレベル向上とその育成に力を注いでこられました。

この様な氏の永年にわたる活動は、地域文化の向上発展に大きく寄与するものであることから、帯広市文化賞を贈り顕彰するものであります。

《略 歴》

昭和43年	武蔵野音楽大学音楽学部声楽科卒業
昭和52年	こえだの会第1回コンサート（以後平成25年までに全21回開催）
昭和53～平成10年	女声合唱団ハローコーラスの指揮者を務める
昭和58年	帯広市民劇場運営委員会入会
平成元年	帯広市民文化ホール柿落 ハイドン「天地創造」ソプラノソロ出演
平成4年	帯広市文化奨励賞受賞、初のソプラノリサイタル開催
平成7年	札幌交響楽団第3回帯広定期演奏会にて「ラ・ボエーム」他で共演
平成9年	帯広市民オペラ「カルメン」ミカエラ役及びソリスト指導
平成10年	十勝文化賞受賞
平成12年	モーツァルト「レクイエム」ソプラノソリスト
平成14年	帯広市民オペラ「魔笛」侍女1役及びソリスト指導
平成15年	ヘンデル「メサイヤ」ソプラノソリスト
平成18年	帯広市民オペラ「椿姫」ソリスト指導及び演出補
平成21年	オルフ「カルミナ・ブラーナ」ソプラノソリスト
平成23年	帯広市民オペラ「トゥーランドット」姫役及びソリスト指導 第20回日本クラシック音楽コンクール全国大会 優秀指導者受賞
平成24年	「赤い山青い山白い山」振興保存会委員

帯広市文化奨励賞受賞者



いいだ かずゆき
飯田 和幸 (71歳)

《受賞理由》

氏は昭和45年より絵画活動を始められてからこれまで地道に研鑽を重ねてこられ、意欲的な活動を続けております。

若手の絵画グループ「芽」結成や異ジャンルのグループ「十勝作家協会」の設立により様々な文化活動を行なってこられ、地域の美術文化のレベル向上に貢献されてきました。

また、独学で技法を考案したパステル画を広めるため、昭和63年に「北海道パステル画協会」を創設し、多くの後進の育成にも尽力してこられました。

この様な氏の永年にわたる活動は、地域文化の向上発展に寄与するとともに、今後の活動も大きく期待できるものであることから、帯広市文化奨励賞を贈り顕彰するものであります。

《略 歴》

昭和45年	本格的に絵画活動を開始、北海道美術作家協会会友推挙
昭和46年	平原社展会頭賞受賞・会友推挙、北海道美術作家協会会員推挙、グループ「芽」結成
昭和47年	新北海道美術協会初出品入選、二科展初出品入選
昭和48年	二科展特選受賞、新北海道美術協会会友推挙
昭和49年	新北海道美術協会道立美術館賞受賞・会員推挙
昭和50年	独自のパステル画の技法を考案
昭和52年	帯広北高等学校美術講師を務め始める(平成元年退職)
昭和57年	十勝の風土と未来を考える美術作家会議結成 十勝合同庁舎合同壁画共同制作参加 帯広百年記念館十勝春夏秋冬画制作、同ブロンズ像制作参加
昭和59年	帯広少年院の篤志面接委員
昭和63年	「北海道パステル画協会」を創設
平成元年	帯広市民文化ホール小ホール緞帳デザイン
平成4年	十勝文化会議文化奨励賞受賞
平成5年	「十勝作家協会」設立、札幌ライラックギャラリー 個展
平成6年	札幌時計台ギャラリーA室 個展
平成8年	新北海道美術協会帯広支部長(現在まで)
平成10年	第1回芸術文化フェスティバル展出品(釧路市生涯学習センターアートギャラリー)
平成12年	北網圏北見文化センター 個展
平成21年	法務大臣より篤志面接員長年功績受賞
平成24年	藍綬褒章受賞

帯広市文化奨励賞受賞者



おびひろきょうげん

かい

帯広狂言づくしの会 (設立22年)

《受賞理由》

帯広狂言づくしの会は平成元年に開催された「おびひろ薪能」で上演された山本東次郎師三兄弟による狂言「武悪」を見て、その芸術性高い演技に感激した市民有志が集まり、平成3年に発足しました。

当時の十勝地方では狂言に触れる機会がほとんどない中、鑑賞等を通して狂言の芸術の広さを十勝・帯広の人々に広めた功績は大きいものがあります。

また、小・中・高等学校での鑑賞会や市民対象のワークショップの開催は、狂言の普及に大きな役割を果たすとともに、鑑賞者の狂言に対する理解度の向上につなげてこられました。

このような会の永年にわたる活動は、地域文化の向上発展に寄与するとともに、今後の活動も大きく期待できるものであるため、帯広市文化奨励賞を贈り顕彰するものであります。

《略 歴》

平成 3 年	帯広狂言づくしの会が活動開始、第1回定例公演開催 (以後毎年秋に開催)
平成 4 年	帯広緑陽高等学校で狂言鑑賞会 (1回目) 開催
平成 5 年	事前勉強会としての講演会を開催 (以後毎年開催)
平成 6 年	山本家所蔵の「狂言の面と装束展」を帯広百年記念館で開催
平成 7～8 年	高齢者学級主催「狂言鑑賞会」開催
平成 7 年	鹿追町「狂言づくしの会」開催
平成 8 年	塩津哲生師「能とのふれあい講座」開催
平成 10 年	「秋の日本古典芸能鑑賞ツアー」(東京2泊3日) 実施 西小学校開校百周年記念公演・十勝おやこ劇場協議会公演開催 帯広緑陽高等学校公演 (2回目) 開催
平成 11 年	鹿追町「狂言づくしの会」(2回目) 開催
平成 12 年	第2回「狂言の面と装束展」を藤丸デパートで開催
平成 12～15 年	北海道舞台塾《狂言ワークショップ》等の企画に協力
平成 15 年	「春の日本古典芸能鑑賞ツアー」(東京2泊3日) 実施
平成 16 年	狂言鑑賞会を明和小学校・第五中学校で開催
平成 17～19 年	狂言鑑賞会を市内全15中学校で開催
平成 18 年	NPO音更町文化事業協会と連携し第17回定例公演を「音更公演」として開催
平成 19 年	帯広市教育研究所「21世紀教師塾・山本東次郎師講演会」開催
平成 20 年度	帯広市民劇場賞受賞
平成 21 年	帯広柏葉高等学校全校鑑賞開催・音更高等学校全校鑑賞開催
平成 22～24 年	狂言ワークショップを開催
平成 25 年	第2回おびひろ薪能公演の開催協力